

清々しく、美しく、機能的に。

—いつもの暮らしにゆとりを—

洗面室も浴室もトイレも、
素肌に直接触れることが多いから
いつだって清潔に保っていたい。

朝のリフレッシュタイムや
夜のリラックスタイムにふさわしい
上質な空間にしたい。

洗濯などの家事もする場所だから、
使い勝手もいい方がいい。

何気なく過ごしているサニタリーですが、
実はいつもの暮らしに密接に関わっているもの。
だから、その二つひとつの空間の質が、
日々の心地よさに大きく影響してきます。

今回は、いつもの暮らしにゆとりをもたらす
サニタリーのあり方を考察します。



「上本町マンションギャラリー(大阪府)」の洗面室から見たウォークスルークローゼットと寝室。忙しい朝もスムーズな動線で身支度ができ、夜はお風呂から上がったそのまま寝室へ行ってゆったりくつろげます。

暮らしをイメージして 使いやすいさを追求

限られた空間のサンタリーでゆとりを感じられるようにするには、どのような配慮が必要なのでしょう。

「サンタリーは日々の暮らしに欠かせないものですが、そこに割ける空間は決して広くはありません。あるべきものを配置していくと画一的になりがちな点に注意が必要です。だからこそグランドメゾン（以下、GM）では、リアルな暮らしのシーンを細かく思い浮かべながら空間設計するように心がけています」（神吉）

「なかでも洗面室は、洗顔や歯磨きなどに使うほか、メイクや身支度、脱衣、洗濯など、様々な役割を担っています」（森村）

「ずっと長居するわけではありませんが、特に朝や晩には家族全員が頻繁に出入りする場所になっていますね」（古谷）

「多用途で使用頻度が高い分、モノがあふれやすい場所もあるので、生活行為をイメージした収納をご提案しています。たとえば足元にランドリーボックスが納められ、その上



タオルや着替え、シャンプーのストックなどが入る棚の下に、脱衣かごがスッキリ納まるスペースを用意。入浴前後に必要なものが一箇所に集まっているので、パスタアイテムが快適になります。（GM新梅田タワー／大阪府）

タオルや家族一人ひとりの下着を分けてしまえる引き出しがいくつかあり、なおかつお風呂上がりに着る服を置いておける棚がある。そうしたシステムチックな収納があれば、空間がすっきり片付き、入浴前後の一連の動作がスムーズになります」（神吉）

「また、水まわりは常に清潔にしておきたい場所であり、清掃性も気になるころなので、サツと拭きやすい形状など、細かい仕様にもこだわっています」（森村）

「見た目にはあまり分からないようにならなくともしたことで、お手入れのしやすさが大きく変わることがあります。たとえば水はねしにくいポウル形状になつていれば、使う度にまわりを拭くという手間から解放されますよね。住まい手目線で使い勝手やメンテナンス性を検証し、細かな部分の計画に活かしています」（神吉）

「暮らしを考えると洗面室のディテールつひと



豊富な収納で片付けやすい洗面室。下着などは家族一人ひとりに割り当てた引き出しに、タオルはオーブン棚に、洗剤のストックは扉付収納にしまつた。モノの配置を考えたい造作収納です。（GM池田満寿美町2016／大阪府）

洗面室への動線や収納に配慮することで、 家事の負担を軽減することもできます。

（森村）

「働きながら子育てをしていると、家事の効率化は切実な悩みです。最近では、女性だけではなく男性も家事を分担する時代になってきましたね」（神吉）

「そういう意味では、誰もが使いやすいようにしておくことが大事なんだと思います。お子さんも大きくなったら家事を手伝うでしょうし、おじいちゃん・おばあちゃん世代が手伝ってくれることもあるでしょう」（森村）

つながりが生む、使いやすいさ

使いやすいさを高めるために、プラン面で工夫されている点を教えてください。

「サンタリーまわりを回遊動線にするのも、一つの方法です。ファミリー世帯を想定したマンションの場合は、洗面室へのアクセスを回遊動線にして、朝の忙しい時間帯にも家族の動線



ホテルライクでラグジュアリーなサンタリー。大理石の床やフラットライト、タオル掛けなど細部までこだわること、優雅なリラクスターにふさわしい雰囲気を感じています。（グランフロント大阪オーナーズタワー／大阪府）

つにまでこだわってつくり込んでいるのは、ハウスメーカーならではの視点であり、お客様の心にも響いていると思います」（森村）

「整理整頓、お手入れとお話が続きました。洗面も重要なテーマですよ。」

「洗濯の頻度は、家族構成や年代、ライフスタイルで大きく変わります。毎日洗濯する、あるいは週に2〜3回という方が多いのではないのでしょうか。自分が一人暮らしだった頃は週に1回のまとめ洗いでも大丈夫でしたが、神吉さんのように小さいお子さんがいると洗濯物も多くて大変でしょう?」（古谷）

「うちは子どもが2人いて、毎日どこか1日に何度も洗濯するので、1分でもその時間を短縮して負担を減らしたいと常々思っています」（神吉）

「たとえば洗濯機から取り出した衣類などをサツと掛けられる物干しバーがあると、家事効率があつと良くなりますよね」（森村）

「人によって要・不要があるでしょうから、オプションで選んでいただけるようにするなど、住まう方に寄り添った心遣いが必要なのではないかと思っています」（古谷）



化粧用スリット照明を標準装備した三面鏡。鏡に影ができにくいので、美しくメイクを仕上げることができ、鏡の下アクセントタイルが、リラクセス空間を華やかに演出しています。（GM藤が丘ヒルズ／愛知県）



ています」（森村）

「また上本町マンションギャラリーで提案しているプランのように、主寝室のウォークスルークローゼットから洗面室へアクセスできるようにすることもあります（P10写真参照）。寝室と洗面室が近いと朝の身支度や夜のスキンケアのひとつときにも、ゆとりが生まれます」（神吉）

「そうですね。直接アクセスできなくても、サンタリーを主寝室の近くにしてPP（Private/Public）分離を図ることで、『使いやすい』と『邸宅としての格』を意識したレイアウトをしていく場合もあります」（古谷）



共感と、驚きと感動

こうして伺っていると、共働きが当たり前となっている今、収納や動線などで使い勝手を改善し、家事ストレスを軽減することが重要なポイントとなっているのです。

「それは欠かせない点です。しかし難しいのは、そうした機能性と意匠性との両立です。GMは、マンションづくりを通してお客様に『共感』と『驚きと感動』を提供していきたいと考えています」（古谷）

「サンタリーは機能面について共感していただく要素が強いのですが、だからといって整然と空間構成するのではなく、住まう方の感性・心に働きかけるデザインにしたいんですよ」（神吉）

「第一印象は大切なので、たとえば洗面室に入つた瞬間に何が見えるか、ということも気にかけてレイアウトしています。収納は奥にし



水はねの少ないポウル形状の洗面カウンターで、日々の清掃のストレスを軽減。天板とポウルとの間につき目のない一体成型なので拭き掃除も簡単にでき、見た目もすっきりします。（福岡マンション事業部）



talking member

大阪マンション事業部（左から順に）

- 古谷勲：設計室／一級建築士／宅地建物取引士／春や秋の気候のいいときには妻と二人で山歩きを楽しんでいます。冬の寒い時期は自宅で革小物をつくっており、趣味の範囲ですが、友人からのオーダーも受けているんです。
- 神吉梨紗：設計室／一級建築士／休日は5歳の娘と2歳の息子と一緒に公園や動物園に行くことが多いです。また、子どもと一緒にお花を買いに行つて飾るのが好きです。部屋に生花があると気持ちが華やぎ、癒やされます。
- 森村友香：分譲営業課／宅地建物取引士／健康住宅アドバイザー／ダンスを始めて約2年。今は大きな発表会に向けて練習中です。ホットヨガや飼い犬のトイプードルとお散歩も、いい息抜きになっています。

機能性と意匠性を兼ね備えた空間で 共感と、驚きや感動をもたらせるように。

(古谷)



「上質感のある洗面化粧台が目に入るようにすると、ダウンライトの位置を少し工夫するだけでも、印象が大きく変わります」(古谷)

「また、かつてはサニタリーといえば清潔感のある『白』というイメージでしたが、近年はもっと自由度が高くなっており、家具のようにインテリアアコーデネットができるようになってきました」(神吉)

「キッチンも昔は機能重視のデザインだったものが、意匠性が高まって家具のようになっています。同様にサニタリーのデザインも成熟してきており、住まい全体に統一感を持たせるトータルインテリアも可能になってきてい

るんです」(古谷)

「間接照明などを用いたホテルライクな洗面室や大きな窓を設けた浴室など、個性的なサニタリーを計画することもありますね」(森村)

「たとえば積水ハウスの『スローリビング』の考え方をバスルームにも当てはめて、浴槽につかりながら空が見える開放的な空間にする、ゆっくりくつろいでいただけると思います」(神吉)

「自然を感じられる心地いい空間でリフレッシュタイムを過ごせるのは憧れますね」(森村)

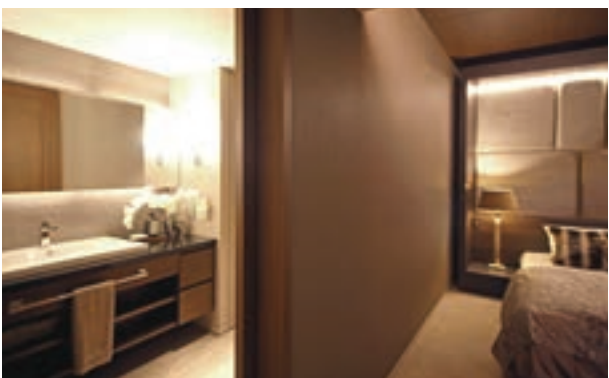
「外からの視線や広さの面から、バスルームに大きな窓を設けられるマンションは限られて

いますが、スリット窓で外光をとり入れたり、洗面室との仕切りをガラス張りにして広さを感じられるようにしたり、開放感を演出する方法は様々にあります」(古谷)

トイレはおもてなし空間へ

サニタリーにはトイレも含まれますね。GMの提案ではどのようなことを心がけているのでしょうか。

「GMはメーターモジュールを採用しているため、トイレも一般的なものより一回り広く感じ



隣接する主寝室と統一感のあるインテリアとした洗面室・浴室。プライベートスペースを一箇所に集中させることで、住まいの中でもON/OFFを切り替えられます。(GM上町台ザ・タワー／大阪府)



自然光が差し込む明るいメイクアップコーナー。クローゼットに隣接しており、水も使えるので、ここでメイクやコーディネートといった朝の身支度をすべて完成させることができます。(GM池下ザ・タワー／愛知県)



浴槽に浸かりながら外の景色を眺めることができる、大きな窓のある浴室。お休みの日の朝、爽やかな光を感じながらお風呂に入れば、一日を気持ちよくスタートできます。(GM伊勢山／神奈川県)



ホワイトを基調とした清潔感のあるバスルームに、木調パネルのアクセント壁を採用。浴室テレビを見ながらゆっくりくつろぎ、一日の疲れを芯から癒やせる、安らぎの空間に仕上げました。(GM御園座タワー／愛知県)



中庭とバスコートのある浴室。窓を開け放てば、光と風をふんだんに取り入れることができ、露天風呂のような心地よさに。洗面室との仕切りもガラスなので、開放感あふれる空間になっています。(GM芦屋船戸町／兵庫県)

ていただけます」(古谷)

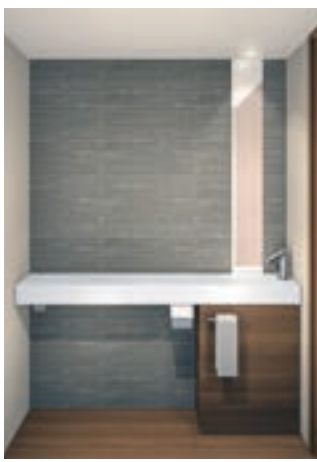
「扉のサイズや質感にもこだわっているので、モデルルームでトイレをご案内すると、扉を開ける際に『えっ、ここがトイレ？』と驚かれるお客様も多いんですよ」(森村)

「少し広い分、ゆとりのある空間設計ができるのも特長です。来客時などに『ちょっとお手洗いを……』というシーンはよくあることなので、気持ちよく使っていただける『おもてなし空間』となるように意識しています。手洗いカウンターを標準で設置することが多くなっていますし、鏡を設置してメイク直しなど

もできるようにすることもあります」(神吉)

「トイレは広さの割に必要なものが多く、意外と設計者を悩ませる空間でもあります。リモコンと手すりやペーパーホルダーと収納と、どれもサッと手が届く位置に設置しようとする、場所の取り合いになってしまふんです。それでもパズルのように組み合わせていき、使いやすく、見た目にも美しくなるようにしています」(古谷)

「ビートショック対策でヒーターを置いたり、アロマディフューザーやBGM機器などを設置したり、ライフステージや好みによっても必



限られた広さのトイレ空間にゆとりを生む、スリムなカウンター。奥行き20cmという省スペース設計でありながら、ボウルの寸法を最大限に確保しているので、周囲の水はねも軽減できます。(福岡マンション事業部)

住まう方の暮らしを多様な視点でとらえ、 サニタリーの新しい可能性を切り拓きたいです。

(神吉)



要なものは変わってくるので、拡張性を高めるためにコンセントの数や配置にも気をつけていますね。そういう配慮が一人ひとりの暮らしにふさわしい空間づくりにつながっていくのだと思います」(神吉)

「また、ほかのサニタリーと同じように、トイレのインテリア性も高まってきていますね。便器自体もタンクレスなどスマートなものが増えていきますし、床や壁の仕上げも住まい全体の雰囲気と合わせることで、気持ちよく使っていただけける空間になるような心がけています」(森村)

これからの時代に ふさわしいサニタリー

サニタリーは、小さな配慮の積み重ねでつくられていくんですね。

「サニタリーの使い方は十人十色なので、必要



トイレと洗面カウンターのプライベートサニタリー。ホワイトをベースにして、間接照明とブラックを効果的に用いることで、モトモトのスタイリッシュな空間に仕上げました。(GM京都岡崎／京都府)

な配慮も多岐にわたります。私と神吉さんが同じ物件を担当したとしても、意見が異なり、大いに議論することもあります」(古谷)

「スタッフそれぞれが異なる目線で見て気づいた点を踏まえ、どうすればより暮らしやすい住まいをご提供できるのかと考えることで、新しいステップに進めているような気がしています」(神吉)

これからの時代、サニタリーはどのように進化していくのでしょうか？

「家族の人数が少なくなっている今、部屋数を増やすよりも、ゆとりたりとしたサニタリーにして居心地の良さ・暮らしの質の高さを追求する方が、より多くのお客様に喜んでいただけるように思います」(森村)

「あとはライフスタイルの多様性にどう対応していくか、でしょうね。空間に余白を残して融通性を高めるといったのも一つの方法ではないかと思えます。たとえばオプションやセレクト



メイク直しに使える鏡やカウンター置き型ボウルを備え、お客様もご案内しやすいおもてなしのトイレ。アクセントクロスと間接照明の陰影により、単調になりがちな空間に変化をつけています。(GM御園座タワー／愛知県)

トメニューを豊富にご用意してカスタマイズできるようにするなど、住まう方に寄り添うスタイルをこれまで以上に高めていきたいですね」(古谷)

「今後は、水の質にこだわることなども検討しています。美容室で、シャンプーの泡立ちがいいと感じることがあるのですが、あれは軟水を使っているからなんだそうです。手荒れもしにくく、アトピーなど肌の弱いお子さんの健康面にもいいと思います」(神吉)

「室内環境全般にわたって細かな配慮を行なっているGMとしては、健康をキーワードとして新しいご提案をしていくのも一つの切り口だと考えています」(古谷)

「サニタリーは家事の省力化や居心地のよさ、意匠性、さらに美容や健康など多様な角度からアプローチできるので、まだまだ進化していく余地のある空間だと思います。今後、『共感』と、『驚きと感動』をキーワードに、住まう方の暮らしがより豊かに、ゆとりあるものになるようなご提案をしていきたいですね」(森村)

*
住まう方の想いに寄り添い、細やかな配慮を重ねてつくられたサニタリーは、いつもの暮らしに空間的・時間的ゆとりをもたらすだけでなく、心にもゆとりをもたらすのではないのでしょうか。